

# 協会の構成員

国立大学協会は、全国82国立大学法人、86大学と  
4研究機構により構成されています。

## 知の列島

### ●正会員 (82国立大学法人、86大学)

#### 北海道支部 (5法人、7大学)

北海道、北海道教育、室蘭工業、  
北海道国立大学機構  
(小樽商科、帯広畜産、北見工業)、  
旭川医科

#### 東北支部 (7法人、7大学)

弘前、岩手、東北、宮城教育、秋田、  
山形、福島

#### 東京支部 (12法人、12大学)

東京、東京医科歯科、東京外国語、東京学芸、  
東京農工、東京藝術、東京工業、東京海洋、  
お茶の水女子、電気通信、一橋、  
政策研究大学院

#### 関東・甲信越支部 (14法人、14大学)

茨城、筑波、筑波技術、宇都宮、群馬、埼玉、千葉、  
横浜国立、総合研究大学院、新潟、  
長岡技術科学、上越教育、山梨、信州

#### 東海・北陸支部 (11法人、12大学)

富山、金沢、北陸先端科学技術大学院、  
福井、静岡、浜松医科、  
東海国立大学機構(岐阜、名古屋)、  
愛知教育、名古屋工業、  
豊橋技術科学、三重

#### 中国・四国支部 (10法人、10大学)

鳥取、島根、岡山、広島、  
山口、徳島、鳴門教育、  
香川、愛媛、高知

#### 近畿支部 (12法人、13大学)

滋賀、滋賀医科、京都、京都教育、  
京都工芸繊維、大阪、大阪教育、  
兵庫教育、神戸、  
奈良国立大学機構  
(奈良教育、奈良女子)、  
奈良先端科学技術大学院、  
和歌山

#### 九州支部 (11法人、11大学)

福岡教育、九州、九州工業、  
佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、  
鹿児島、鹿屋体育、琉球

### ●特別会員 (4研究機構)

人間文化研究機構、自然科学研究機構、  
高エネルギー加速器研究機構、  
情報・システム研究機構

# 交通のご案内



**電車** ◎東京メトロ半蔵門線/都営地下鉄三田線/都営地下鉄新宿線  
「神保町駅」下車 (A8出口から徒歩3分)

◎東京メトロ東西線  
「竹橋駅」下車 (1B出口から徒歩4分)

**車** ◎首都高速道路  
代官町  
神田橋  
一ツ橋(5号線のみ) ▶ インターチェンジをご利用下さい。



一般社団法人  
国立大学協会  
<https://www.janu.jp/>

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号(学術総合センター4F)  
TEL 03-4212-3506 FAX 03-4212-3509 E-Mail info@janu.jp

一般社団法人  
国立大学協会  
The Japan Association of National Universities

# 2024



一般社団法人  
国立大学協会  
The Japan Association of National Universities

# 会長あいさつ



一般社団法人 国立大学協会  
会長 永田 恭介 (筑波大学長)

国立大学は、創設以来、世界最高水準の教育・研究の実施や重要な学問分野の継承・発展、全国的な高等教育の機会均等の確保、グローバル人材の育成といった役割を担ってきました。

現在、日本、そして世界において世界規模での地政学的リスクが増大し、大規模災害が頻発しています。このような状況において、世界的な様々な課題への抜本的な解決策を各国が模索しているなか、日本が主導権を握る場面は少なく、世界における存在感を急速に失いつつあります。また、国内においては経済成長の停滞、想定を上回るスピードで進む少子高齢化と社会保障の持続可能性確保、地域間格差の解消、持続可能なエネルギーへの転換など、我が国の将来に大きく影響する課題が山積しています。

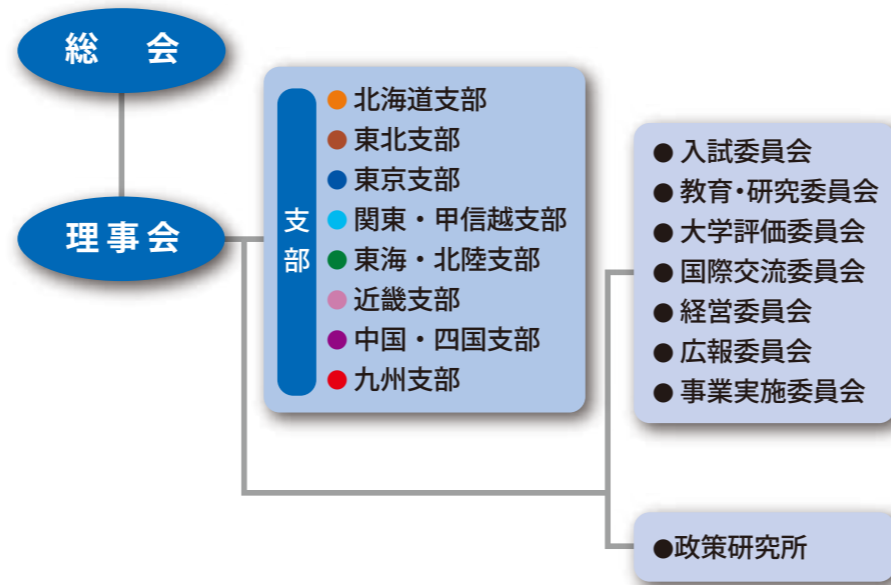
そのような状況において、国立大学は我が国の研究力の源そのものであること、各地域を支える核であること、そして世界の人たちにとって魅力のある大学になり、世界とつながり、交流する場であることが求められています。現在国立大学は、どの地域でも高いレベルの教育にアクセスできるように各都道府県に1校以上配置されており、向学心に燃えた人を育てよう、という共通の理念があります。各地域の文化・社会・経済を支える拠点であり、産業、医療、福祉、教育などに責務を負っていることを自覚しています。今後は、共通する部分はシステム化した「国立大学システム」を確立したいと考えております。国立大学は社会的共通資本であるという認識の下で、我々のアドバンテージを最大限に活用し、国立大学だからこそできる連携を行い、「国立大学システム」をうまく活かして国立大学全体で国民に対して応え、世界にアピールしていく必要があります。

2004年に国立大学が法人化して今年で20年という節目の年を迎えました。この20年を振り返り、我が国にとって大学とは何か、そして目まぐるしく変化する社会に対して、国立大学はどのように貢献していくのかということを考えなければなりません。新たな社会状況の変化を受けて、これからの国立大学の在り方について、変えるものと変えてはならないものを見極め、不易流行の原理をもとに改めて問い直す時期を迎えています。これから先20年後の世界、日本の未来を想像し、国立大学は何をしなければならないのかを具体的に考え、明るい夢を語ってまいります。そして社会の中で役割を果たすことだけでなく、社会そのものを支えていく役割を担ってまいります。

様々な地域・社会の発展に貢献するとともに、知の循環と社会への還流を生み出し、新たな価値の創造と新しい社会基盤の構築を先導する役割を果たす国立大学を、国立大学協会は支えてまいります。引き続き、ご支援を賜りますよう、お願いいたします。

2024年4月

# 組織図



# 役員等名簿

2024年4月1日現在

(◎は委員長等)

会長(理事)	永田 恭介	【筑波大学長】	◎ 大学評価委員会
副会長(理事)	寶金 清博	【北海道大学長】	◎ 経 営 委 員 会
	藤澤 正人	【神戸大学長】	◎ 教育・研究委員会 / ◎ 政策研究所運営委員会
	益 一哉	【東京工業大学長】	◎ 広 報 委 員 会 / 国際交流委員会
	佐々木 泰子	【お茶の水女子大学長】	広 報 委 員 会 / ◎ 政 策 研 究 所
専務理事	位田 隆一	【前滋賀大学長】	広 報 委 員 会
常務理事	村田 善則	【国立大学協会事務局長】	教育・研究委員会
理 事	西川 祐司	【旭川医科大学長】	教育・研究委員会
	富永 悌二	【東北大学長】	広 報 委 員 会
	松岡 尚敏	【宮城教育大学長】	経 営 委 員 会
	田中 雄二郎	【東京医科歯科大学長】	入 試 委 員 会
	林 佳世子	【東京外国語大学長】	事業実施委員会
	梅原 出	【横浜国立大学長】	国際交流委員会
	牛木 辰男	【新潟大学長】	国際交流委員会
	和田 隆志	【金沢大学長】	事業実施委員会
	上田 孝典	【福井大学長】	◎ 事業実施委員会
	松尾 清一	【東海国立大学機構長】	◎ 国際交流委員会
	湊 長博	【京都大学長】	大学評価委員会
	西尾 章治郎	【大阪大学長】	入 試 委 員 会
	中島 廣光	【鳥取大学長】	広 報 委 員 会
	河村 保彦	【徳島大学長】	教育・研究委員会
	仁科 弘重	【愛媛大学長】	経 営 委 員 会
	石橋 達朗	【九州大学長】	◎ 入 試 委 員 会
	兒玉 浩明	【佐賀大学長】	大学評価委員会
	小川 久雄	【熊本大学長】	大学評価委員会
監 事	田野 俊一	【電気通信大学長】	教育・研究委員会
	寺嶋 一彦	【豊橋技術科学大学長】	
会長補佐	藤井 輝夫	【東京大学長】	
	中野 聡	【一橋大学長】	
	岡本 幾子	【大阪教育大学長】	
	塩崎 一裕	【奈良先端科学技術大学院大学長】	
	越智 光夫	【広島大学長】	
	浅井 祥仁	【高エネルギー加速器研究機構長】	

# 事業内容

## ●国大協の目的(定款第4条)

各国立大学法人が実施する教育・研究及び社会貢献に関する多種・多様な活動において、質の高い成果を挙げるための環境作りを行い、もって国立大学法人の振興と我が国の高等教育・学術研究の水準の向上及び均衡ある発展に寄与する。

## ●国大協の事業(定款第5条)

- (1) 国立大学が質の高い教育、学術研究及び社会貢献を推進するために必要な事業
- (2) 自主的政策立案、国の高等教育政策や学術研究政策等に関する政策提言のための調査研究
- (3) 国際パートナーシップを基本とした国際交流事業
- (4) 国立大学法人の経営に関する支援
- (5) その他目的を達成するために必要な事業

# 主な活動(2023年度)

## ◎総会・理事会

- ・総会(6月、11月、1月、3月)
- ・理事会(4月、5月、7月、10月、12月、2月)



第2回通常総会を開催

## ◎要望・提言活動等

- ・国立大学協会緊急要望(5月、6月)
- ・生成AIの利活用に関する国立大学協会会長コメント(5月)
- ・「スーパーグローバル大学創成支援事業」、「大学の世界展開力強化事業」に対する要望(5月)
- ・国立大学の国際化推進に必要な政策についての要望(8月)
- ・令和6年度予算における国立大学関係予算の充実及び税制改正等に関する要望(8月、11月)
- ・国立大学におけるセクシュアルハラスメントを含む性暴力等の防止について(会長声明)(10月)
- ・国立大学法人法の一部を改正する法律案について(会長声明)(11月)
- ・「大学の自律的学物質管理ガイドライン(第2版)」の公表(1月)



永岡文部科学大臣(当時)に要望書を提出

## ◎国際活動等

- ・G7 科学シエルパ会合 SIGRE WG に出席(4月、9月、11月)
- ・日台交流事業2023 Taiwan-Japan (JACUIE) University Presidents' Forumを開催(台湾・埔里プリー) (7月)
- ・IAU国際会議へ出席(カタル・ドーハ) (11月)



日台交流事業「2023 Taiwan-Japan University Presidents' Forum」を開催

## ◎セミナー・研修等

- ・国立大学法人等担当理事等連絡会議【ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン〜女性研究者の活躍・推進に向けて〜】(6月)
- ・国立大学法人等部課長級研修(7月)
- ・国立大学法人トップセミナー(8月)
- ・ユニバーシティ・デザイン・ワークショップ(9月)
- ・国立大学法人等担当理事等連絡会議【コロナ後のグローバル社会を見据えた国際交流について】(10月)
- ・大学入学者選抜のリスクマネジメントセミナー(10月)
- ・大学改革シンポジウム【文理融合教育の可能性】(10月)
- ・国立大学法人等広報担当者勉強会【大学広報における効果的なSNS運用】(11月)
- ・国立大学法人等若手職員勉強会【「選ばれる大学」を考える。私たちは何ができるか。】(11月)
- ・大学マネジメントセミナー【大学間連携の様々な形】(12月)
- ・国立大学法人新任学長(就任予定者)セミナー(2月)



広報誌等を刊行

## ◎刊行物等・広報活動

- ・広報誌「国立大学」第68号〜第71号(7月、10月、12月、3月)
- ・広報誌「国立大学」別冊21号(7月)
- ・論説委員等との懇談会(10月)